

地域社会と共存する企業を目指す富士フィルム九州の取り組み  
**「南阿蘇えほんのくに」 パートナー第1号として参加**

平成18年12月19日

富士フィルム九州株式会社（社長：山口 光男、以下：富士フィルム九州）は、「南阿蘇えほんのくに」が進める地域の文化的活動を支えるパートナーの第1号として今後、協賛いたします。

富士フィルム九州は、富士フィルム株式会社（社長：古森 重隆）のフラットパネルディスプレイ材料事業の主要製品「フジタック」※1の生産拠点として、本年10月30日より第1工場を立ち上げ、本格稼働を開始しています。製造される「フジタック」は優れた光学特性を持ち、液晶用偏光板の保護フィルムとして、液晶ディスプレイの製造に不可欠な材料です。液晶ディスプレイは、日本をはじめ米国、欧州でも急速に普及が進むなど、世界的に需要が急拡大し今後も高い成長が見込まれており、当社は更なる能力増強と安定供給の強いニーズにお応えしていくため、第1工場に引き続き、来年の8月には第2工場、平成20年4月には第3工場を順次稼働スタートさせていく計画です。

当社は積極的な事業活動を進めるとともに企業としての活動を行う上で非常に重要な、地域における「文化の振興」や「環境の保全」に積極的に取り組んでいきたいと考えております。今回、その取り組みの一つとして「南阿蘇えほんのくに」のパートナーとして協賛することとし、本日、「南阿蘇えほんのくに」の宰相である宮本孝志氏とともに、潮谷熊本県知事立会いのもと、「南阿蘇えほんのくに」が進める地域の文化活動を、当社が支えていく旨の「平和条約」調印※2を執り行いました。

「南阿蘇えほんのくに」は、南阿蘇の有志の方々が中心となって「えほん」をキーワードに、地域文化の振興や環境の保全、交流の推進などを進めていこうとする、本年5月にスタートした取り組みです。地域の方や企業、行政とのパートナーシップによる新しい地域振興モデルとして期待されており、絵本図書館の運営や、手作り絵本教室、絵本の読み聞かせといった催し物の開催など、様々な活動が行われています。

当社は、「南阿蘇えほんのくに」のパートナーとして、例えば南阿蘇を舞台とした写真絵本の作成や、絵本がイメージされるようなフォトスポットの選定・紹介、そしてそれらを題材とした公募による写真展の開催など、これまで進めております富士フィルムグループの写真文化を守り育てる取り組みと連携させた企画を検討し、活動を支援していきたいと考えています。

富士フィルム九州はこれからも、地域社会と共存する企業を目指し、積極的な地域との交流をはかっていくとともに、「南阿蘇えほんのくに」とのパートナーシップによる活動を通し、「南阿蘇えほんのくに」が提唱する『みんながやさしくなれる南阿蘇』づくりの一助となるよう努めていきます。

- ※1 フジタック：TAC（セルローストリアセート）を素材とし、液晶用偏光板の保護膜として使用されるフィルム。  
※2 平和条約：「南阿蘇えほんのくに」が、活動の目的に賛同して参加する各種団体・企業などと対等で自主的なパートナーシップを約束する、独自に制定した契約。

本件に関するお問い合わせは、下記をお願いいたします。

報道関係・お客様 富士フィルム九州株式会社 総務部

TEL 096-340-9000

その他以下のホームページアドレスで、富士フィルムグループの環境・社会活動を紹介しています。

<http://www.fujifilm.co.jp/corporate/environment>